

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂		
対象学生(クラス等) La・Ea	科目分類 共通基礎科目			
担当教員 / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433 /オフィスアワー:12:00~18:00 安武敦子/Eメールアドレス:yasutake@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2600/オフィスアワー:月曜日3~4校時 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー:講義終了後1時間程度 高橋眞司/Eメールアドレス:——/研究室:生涯学習センター/TEL:819-2234 /オフィスアワー:月曜日3校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長 崎 : 第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。 第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。 第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。 安全・安心:1. 長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 2. 人はいつ障害を持つかわからない。そんななか身体が不自由な人でも町に出やすいように法整備が進んでいる。長崎の都市部の状況を見ながら、交通バリアについて考える。 3. 社会では様々な事故が発生し、重い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 海洋と文化:1. 地球と海と人と-海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)-東シナ海・黄海の環境問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)-大村湾・有明海の環境保全・回復のための地域の取り組み 平 和 : 第1回 新しい学問・平和学—その定義と技法 第2回 原爆体験と被爆者 第3回 平和責任—長崎で考える 第1回 4月11日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月18日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第3回 4月25日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第4回 5月 2日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第5回 5月 9日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第6回 5月16日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第7回 5月23日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第8回 5月30日 特別講演Ⅱ 荘野 尚志 (特別講師) 第9回 6月 6日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第10回 6月13日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第11回 6月20日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第12回 6月27日 平 和 高橋 眞司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第13回 7月 4日 平 和 高橋 眞司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第14回 7月11日 平 和 高橋 眞司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第15回 7月25日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	<p>長崎:くすり、生態学、ものづくり</p> <p>安全・安心:自然災害、共助、社会的弱者、都市計画、デザイン、失敗学</p> <p>海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり</p> <p>平和:戦争と平和の定義、原爆体験、被爆者、平和責任</p>
教科書・教材・参考書	<p>長崎:講義の概要を印刷物として配布。参考書:「出島のくすり」長崎大学薬学部編</p> <p>安全・安心:必要に応じて資料を配付する。参考書:「安全安心工学入門」古今書院</p> <p>海洋と文化:印刷物を配布する。</p> <p>平和:高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社;『長崎にあつて哲学するー核時代の死と生』北樹出版;『続・長崎にあつて哲学するー原爆死から平和責任へ』北樹出版</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎:毎回小レポート(各7点)</p> <p>安全・安心:レポート各7点</p> <p>海洋と文化:毎回のレポート各7点</p> <p>平和:毎回のレポートを総合的に勘案して21点</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂		
対象学生(クラス等) Lb・Eb	科目分類 共通基礎科目			
担当教員 / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 高橋真司/Eメールアドレス:—/研究室:生涯学習教育研究センター/TEL:819-2234 /オフィスアワー:月曜日3校時 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433 /オフィスアワー:12:00~18:00 安武敦子/Eメールアドレス:yasutake@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2600/オフィスアワー:月曜日3~4校時 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー:講義終了後1時間程度				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平 和: 第1回 新しい学問・平和学—その定義と技法 第2回 原爆体験と被爆者 第3回 平和責任—長崎で考える 長 崎: 第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。 第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。 第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。 安全・安心:1. 長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 2. 人はいつ障害を持つかわからない。そんななか身体が不自由な人でも町に出やすいように法整備が進んでいる。長崎の都市部の状況を見ながら、交通バリアについて考える。 3. 社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 海洋と文化:1. 地球と海と人と—海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)—東シナ海・黄海の世界環境問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)—大村湾・有明海の世界環境保全・回復のための地域の取り組み 第1回 4月11日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月18日 平 和 高橋 真司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第3回 4月25日 平 和 高橋 真司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第4回 5月 2日 平 和 高橋 真司 (生涯学習教育研究センター 客員教授) 第5回 5月 9日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第6回 5月16日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第7回 5月23日 長 崎 田中 隆 (薬学部) 第8回 5月30日 特別講演Ⅱ 荘野 尚志 (特別講師) 第9回 6月 6日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第10回 6月13日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第11回 6月20日 安全・安心 安武 敦子 (工学部) 第12回 6月27日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第13回 7月 4日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第14回 7月11日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第15回 7月25日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	<p>平和:戦争と平和の定義、原爆体験、被爆者、平和責任 長崎:くすり、生態学、ものづくり 安全・安心:自然災害、共助、社会的弱者、都市計画、デザイン、失敗学 海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和:高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社;『長崎にあつて哲学するー核時代の死と生』北樹出版;『続・長崎にあつて哲学するー原爆死から平和責任へ』北樹出版 長崎:講義の概要を印刷物として配布。参考書:「出島のくすり」長崎大学薬学部編 安全・安心:必要に応じて資料を配付する。参考書:「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化:印刷物を配布する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回小レポート(各7点) 安全・安心:レポート各7点 海洋と文化:毎回のレポート各7点 平和:毎回のレポートを総合的に勘案して21点</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次		講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂	
対象学生(クラス等) Lc・Ec		科目分類 共通基礎科目		
担当教員 / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー:講義終了後1時間程度 高橋眞司/Eメールアドレス:—/研究室:生涯学習教育研究センター/TEL819-2234 /オフィスアワー:月曜日3校時 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433 /オフィスアワー:12:00~18:00 安武敦子/Eメールアドレス:yasutake@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2600/オフィスアワー:月曜日3~4校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海洋と文化:1. 地球と海と人と一海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)—東シナ海・黄海の環境問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)—大村湾・有明海の環境保全・回復のための地域の取り組み 平和:第1回 新しい学問・平和学—その定義と技法 第2回 原爆体験と被爆者 第3回 平和責任—長崎で考える 長崎:第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。 第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。 第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。 安全・安心:1. 長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 2. 人はいつ障害を持つかわからない。そんななか身体が不自由な人でも町に出やすいように法整備が進んでいる。長崎の都市部の状況を見ながら、交通バリアについて考える。 3. 社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。				
第1回	4月11日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月18日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)
第3回	4月25日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)
第4回	5月 2日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)
第5回	5月 9日	平 和	高橋 眞司	(生涯学習教育研究センター 客員教授)
第6回	5月16日	平 和	高橋 眞司	(生涯学習教育研究センター 客員教授)
第7回	5月23日	平 和	高橋 眞司	(生涯学習教育研究センター 客員教授)
第8回	5月30日	特別講演Ⅱ	荘野 尚志	(特別講師)
第9回	6月 6日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第10回	6月13日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第11回	6月20日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第12回	6月27日	安全・安心	安武 敦子	(工学部)
第13回	7月 4日	安全・安心	安武 敦子	(工学部)
第14回	7月11日	安全・安心	安武 敦子	(工学部)
第15回	7月25日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり 平和:戦争と平和の定義、原爆体験、被爆者、平和責任 長崎:くすり、生態学、ものづくり 安全・安心:自然災害、共助、社会的弱者、都市計画、デザイン、失敗学</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化:印刷物を配布する。 平和:高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社;『長崎にあつて哲学する－核時代の死と生』北樹出版;『続・長崎にあつて哲学する－原爆死から平和責任へ』北樹出版 長崎:講義の概要を印刷物として配布。参考書:「出島のくすり」長崎大学薬学部編 安全・安心:必要に応じて資料を配付する。参考書:「安全安心工学入門」古今書院</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回小レポート(各7点) 安全・安心:レポート各7点 海洋と文化:毎回のレポート各7点 平和:毎回のレポートを総合的に勘案して21点</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂		
対象学生(クラス等) Ld・Ed	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー:月曜日午後 林秀千人/Eメールアドレス:hidechto@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00 松下吉樹/Eメールアドレス:yoshiki@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2803 /オフィスアワー:月曜日午後 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー: Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長 崎: 1. 魚食文化と長崎:港町、漁業、倉場富三郎、グラバー図譜、日本四大魚譜 2. 海洋国日本と長崎:縄文時代から江戸時代 3. 海洋国日本と長崎:明治から平成 安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃から何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。 海洋と文化:第1回:海は誰のものか、私たちはどれくらい海のことを知っているか 第2回:海の資源とその利用 第3回:国境のある海、東シナ海 平 和:平和とは、少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。 第1回 4月11日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月18日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第3回 4月25日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第4回 5月 2日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第5回 5月 9日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第6回 5月16日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第7回 5月23日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第8回 5月30日 特別講演Ⅱ 荘野 尚志 (特別講師) 第9回 6月 6日 海洋と文化 松下 吉樹 (水産学部) 第10回 6月13日 海洋と文化 松下 吉樹 (水産学部) 第11回 6月20日 海洋と文化 松下 吉樹 (水産学部) 第12回 6月27日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第13回 7月 4日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第14回 7月11日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第15回 7月25日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	長崎：グラバー図譜、海洋環境、水産県長崎 安全・安心：安全・安心 海洋と文化：国連海洋法条約、水産資源、東シナ海 平和：個人、国家、武力による介入、人権
教科書・教材・参考書	長崎：資料を配布する。参考図書：「長崎を知る77のキーワード」講談社 1905 円(税別) 安全・安心：資料を配付する。参考図書：「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化：資料を配付する。 平和：特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 海洋と文化：レポート 平和：レポート
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 429・中部講堂		
対象学生(クラス等) Le・F27	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー: Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー:月曜日午後 林秀千人/Eメールアドレス:hidechto@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00 松下吉樹/Eメールアドレス:yoshiki@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2803 /オフィスアワー:月曜日午後				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和:平和とは、少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。 長崎:1. 魚食文化と長崎:港町、漁業、倉場富三郎、グラバー図譜、日本四大魚譜 2. 海洋国日本と長崎:縄文時代から江戸時代 3. 海洋国日本と長崎:明治から平成 安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃から何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。 海洋と文化:第1回:海は誰のものか、私たちはどれくらい海のことを知っているか 第2回:海の資源とその利用 第3回:国境のある海、東シナ海				
第1回	4月11日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月18日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第3回	4月25日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第4回	5月 2日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第5回	5月 9日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第6回	5月16日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第7回	5月23日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第8回	5月30日	特別講演Ⅱ	荘野 尚志	(特別講師)
第9回	6月 6日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第10回	6月13日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第11回	6月20日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第12回	6月27日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第13回	7月 4日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第14回	7月11日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第15回	7月25日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>平和：個人、国家、武力による介入、人権 長崎：グラバー図譜、海洋環境、水産県長崎 安全・安心：安全・安心 海洋と文化：国連海洋法条約、水産資源、東シナ海</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和：特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。 長崎：資料を配布する。参考図書：「長崎を知る77のキーワード」講談社 1905 円(税別) 安全・安心：資料を配付する。参考図書：「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化：資料を配付する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 海洋と文化：レポート 平和：レポート</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) Lf・F28		科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松下吉樹/Eメールアドレス:yoshiki@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2803 /オフィスアワー:月曜日午後 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー: Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー:月曜日午後 林秀千人/Eメールアドレス:hidechto@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
海洋と文化:第1回:海は誰のものか、私たちはどれくらい海のことを知っているか 第2回:海の資源とその利用 第3回:国境のある海, 東シナ海				
平和:平和とは、少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。				
長崎:1. 魚食文化と長崎:港町、漁業、倉場富三郎、グラバー図譜、日本四大魚譜 2. 海洋国日本と長崎:縄文時代から江戸時代 3. 海洋国日本と長崎:明治から平成				
安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃から何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。				
第1回	4月11日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月18日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第3回	4月25日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第4回	5月 2日	海洋と文化	松下 吉樹	(水産学部)
第5回	5月 9日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第6回	5月16日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第7回	5月23日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第8回	5月30日	特別講演Ⅱ	荘野 尚志	(特別講師)
第9回	6月 6日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第10回	6月13日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第11回	6月20日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第12回	6月27日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第13回	7月 4日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第14回	7月11日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第15回	7月25日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化：国連海洋法条約、水産資源、東シナ海 平和：個人、国家、武力による介入、人権 長崎：グラバー図譜、海洋環境、水産県長崎 安全・安心：安全・安心</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化：資料を配付する。 平和：特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。 長崎：資料を配布する。 参考図書：「長崎を知る77のキーワード」 講談社 1905 円(税別) 安全・安心：資料を配付する。 参考図書：「安全安心工学入門」古今書院</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 海洋と文化：レポート 平和：レポート</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂	
対象学生(クラス等) Ee・T23A	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766/オフィスアワー:16:00~17:30 坂本麻衣子/Eメールアドレス:sakamo10@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2614/オフィスアワー:16:00~17:30 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2811 /オフィスアワー:16:00~17:00 岡市協生/Eメールアドレス:okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102 /オフィスアワー:16:00~17:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
長 崎:長崎の都市形成史の概要を講義します。 第1回目は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。 第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。 第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展する様子を見ます。 映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。			
安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回 安全安心の総論・自然災害の教訓 第2回 長崎県の災害(雲仙普賢岳災害、長崎豪雨) 第3回 自助、共助、公助			
海洋と文化:海洋にすむ哺乳類である鯨類を通して文化を考える。 (1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。 (2)鯨類に与える人為影響:捕鯨、イルカ漁業など直接的利用の他、人類は鯨類にさまざまな影響を与えていることを理解し、鯨類の利用や共存について考える。 (3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。			
平 和:原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。 (1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。 原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。			
第1回	4月 6日	特別講演 I	片峰 茂 (学 長)
第2回	4月13日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第3回	4月20日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第4回	4月27日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第5回	5月11日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第6回	5月18日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第7回	5月25日	安全・安心	坂本 麻衣子 (工学部)
第8回	6月 1日	特別講演 II	深堀 慶憲 (特別講師)
第9回	6月 8日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第10回	6月15日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第11回	6月22日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第12回	6月29日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第13回	7月 6日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第14回	7月13日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第15回	7月20日	特別講演 III	橋本 健夫 (教学担当理事)

キーワード	長崎:長崎の都市形成史 安全・安心:自然災害、減災社会 海洋と文化:鯨類、捕鯨、海洋環境 平和:原爆、放射線、原子力発電
教科書・教材・参考書	長崎:参考書:岡林隆敏著:「上海航路の時代」長崎文献社 安全・安心:印刷物を配布する。 海洋と文化:教科書は使用しない。講義はスライド資料を用いて行う。 平和:参考書:「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」岩波現代文庫
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する 安全・安心:レポート(毎回、各7点) 海洋と文化:レポート(毎回、3回7点) 平和:毎回の小レポート、各7点
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂	
対象学生(クラス等) Ef・T23B	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡市協生/Eメールアドレス:okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102 /オフィスアワー:16:00~17:30 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2811 /オフィスアワー:16:00~17:00 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766/オフィスアワー:16:00~17:30 坂本麻衣子/Eメールアドレス:sakamo10@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2614/オフィスアワー:16:00~17:30 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:もの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、もの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平 和:原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。 (1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。 原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。 海洋と文化:海洋にすむ哺乳類である鯨類を通して文化を考える。 (1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。 (2)鯨類に与える人為影響:捕鯨、イルカ漁業など直接的利用の他、人類は鯨類にさまざまな影響を与えていることを理解し、鯨類の利用や共存について考える。 (3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回 安全安心の総論・自然災害の教訓 第2回 長崎県の災害(雲仙普賢岳災害、長崎豪雨) 第3回 自助、共助、公助 長 崎:長崎の都市形成史の概要を講義します。 第1回目は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。 第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。 第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展する様子を見ます。 映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。			
第1回	4月 6日	特別講演Ⅰ	片峰 茂 (学 長)
第2回	4月13日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第3回	4月20日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第4回	4月27日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第5回	5月11日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第6回	5月18日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第7回	5月25日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第8回	6月 1日	特別講演Ⅱ	深堀 慶憲 (特別講師)
第9回	6月 8日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第10回	6月15日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第11回	6月22日	安全・安心	坂本 麻衣子 (工学部)
第12回	6月29日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第13回	7月 6日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第14回	7月13日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第15回	7月20日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫 (教学担当理事)

キーワード	平和:原爆、放射線、原子力発電 海洋と文化:鯨類、捕鯨、海洋環境 安全・安心:自然災害、減災社会 長崎:長崎の都市形成史
教科書・教材・参考書	平和:参考書:「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」岩波現代文庫 海洋と文化:教科書は使用しない。講義はスライド資料を用いて行う。 安全・安心:印刷物を配布する。 長崎:岡林隆敏著:「上海航路の時代」長崎文献社
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する。 安全・安心:レポート(毎回、各7点) 海洋と文化:レポート(毎回、3回7点) 平和:毎回の小レポート、各7点
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂	
対象学生(クラス等) Eg・T24A	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2811 /オフィスアワー:16:00~17:00 岡市協生/Eメールアドレス:okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102 /オフィスアワー:16:00~17:30 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766/オフィスアワー:16:00~17:30 坂本麻衣子/Eメールアドレス:sakamo10@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2614/オフィスアワー:16:00~17:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。</p> <p>授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。</p> <p>授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>海洋と文化:海洋にすむ哺乳類である鯨類を通して文化を考える。</p> <p>(1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。</p> <p>(2)鯨類に与える人為影響:捕鯨、イルカ漁業など直接的利用の他、人類は鯨類にさまざまな影響を与えていることを理解し、鯨類の利用や共存について考える。</p> <p>(3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。</p> <p>平 和:原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。</p> <p>(1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。</p> <p>原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。</p> <p>長 崎:長崎の都市形成史の概要を講義します。</p> <p>第1回目は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。</p> <p>第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。</p> <p>第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展する様子を見ます。</p> <p>映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。</p> <p>安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。</p> <p>第1回 安全安心の総論・自然災害の教訓</p> <p>第2回 長崎県の災害(雲仙普賢岳災害、長崎豪雨)</p> <p>第3回 自助、共助、公助</p>			
第1回	4月6日	特別講演Ⅰ	片峰 茂 (学長)
第2回	4月13日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第3回	4月20日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第4回	4月27日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第5回	5月11日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第6回	5月18日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第7回	5月25日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第8回	6月1日	特別講演Ⅱ	深堀 慶憲 (特別講師)
第9回	6月8日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第10回	6月15日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第11回	6月22日	長 崎	岡林 隆敏 (工学部)
第12回	6月29日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第13回	7月6日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第14回	7月13日	安全・安心	坂本 麻衣子 (工学部)
第15回	7月20日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫 (教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化: 鯨類、捕鯨、海洋環境 平和: 原爆、放射線、原子力発電 長崎: 長崎の都市形成史 安全・安心: 自然災害、減災社会</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化: 教科書は使用しない。講義はスライド資料を用いて行う。 平和: 参考書: 「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」 岩波現代文庫 長崎: 岡林隆敏著: 「上海航路の時代」 長崎文献社 安全・安心: 印刷物を配布する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎: 毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する。 安全・安心: レポート(毎回、各7点) 海洋と文化: レポート(毎回、3回7点) 平和: 毎回の小レポート、各7点</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義 / (Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂		
対象学生(クラス等) Eh・T24B	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246/オフィスアワー:水曜5校時 市川 寿/Eメールアドレス:ichinon@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2845 /オフィスアワー:水曜5校時 谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:木曜2校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長 崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、新産業創造やソーシャルビジネス等、地域経済・社会の今後を展望する上で欠かせないと思われるトピックについて考えます。 安全・安心: 安全・安心な生活がいかにして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。 海洋と文化: 現代的な食の問題を知り、それらにどう取り組むのか。水産食糧資源を踏まえ、食を考えます。受講生自身の問題としても捉えていただきます。 平 和: グローバル化は国境ばかりか、軍隊と警察、戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では、この変化を説明した上で、現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和、②グローバル化と積極的平和、③途上国における平和構築。				
第1回	4月 6日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月13日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第3回	4月20日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第4回	4月27日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第5回	5月11日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第6回	5月18日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第7回	5月25日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第8回	6月 1日	特別講演 II	深堀 慶憲	(特別講師)
第9回	6月 8日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第10回	6月15日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第11回	6月22日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第12回	6月29日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第13回	7月 6日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第14回	7月13日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第15回	7月20日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	長崎:地域経済、新産業創造、ソーシャルビジネス 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全 海洋と文化:海、食文化 平和:グローバル化、積極的平和、平和構築
教科書・教材・参考書	長崎:教員の作成したスライドを用いるため、特に指定しない。 安全・安心:参考書:「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化:プリント等を適宜配付する。 平和:(参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回の課題(7点×3回) 平和:3回目の授業時に試験実施 海洋と文化:毎回の講義のまとめをレポートとして提出
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義 / (Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 429・中部講堂		
対象学生(クラス等) M11・P18	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:木曜2校時 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246 /オフィスアワー:水曜5校時 市川 寿/Eメールアドレス:ichinon@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2845 /オフィスアワー: 水曜5校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平 和: グローバル化は国境ばかりか、軍隊と警察、戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では、この変化を説明した上で、現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和、②グローバル化と積極的平和、③途上国における平和構築。 長 崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、新産業創造やソーシャルビジネス等、地域経済・社会の今後を展望する上で欠かせないと思われるトピックについて考えます。 安全・安心: 安全・安心な生活がいかんして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。 海洋と文化: 現代的な食の問題を知り、それらにどう取り組むのか。水産食糧資源を踏まえ、食を考えます。受講生自身の問題としても捉えていただきます。				
第1回	4月 6日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月13日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第3回	4月20日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第4回	4月27日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第5回	5月11日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第6回	5月18日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第7回	5月25日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第8回	6月 1日	特別講演 II	深堀 慶憲	(特別講師)
第9回	6月 8日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第10回	6月15日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第11回	6月22日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第12回	6月29日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第13回	7月 6日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第14回	7月13日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第15回	7月20日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	平和:グローバル化、積極的平和、平和構築 長崎:地域経済、新産業創造、ソーシャルビジネス 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全 海洋と文化:海、食文化
教科書・教材・参考書	平和: (参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004 長崎:教員の作成したスライドを用いるため、特に指定しない。 安全・安心:参考書:「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化:プリント等を適宜配付する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回の課題(7点×3回) 平和:3回目の授業時に試験実施 海洋と文化:毎回の講義のまとめをレポートとして提出
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) M12・P19	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 市川 寿/Eメールアドレス:ichinon@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2845 /オフィスアワー: 水曜5校時 谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:木曜2校時 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246 /オフィスアワー:水曜5限				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
海洋と文化:現代的な食の問題を知り、それらにどう取り組むのか。水産食糧資源を踏まえ、食を考えます。受講生自身の問題としても捉えていただきます。				
平和:グローバル化は国境ばかりか、軍隊と警察、戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では、この変化を説明した上で、現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和、②グローバル化と積極的平和、③途上国における平和構築。				
長崎:長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、新産業創造やソーシャルビジネス等、地域経済・社会の今後を展望する上で欠かせないと思われるトピックについて考えます。				
安全・安心:安全・安心な生活がいかにして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。				
第1回	4月 6日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月13日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第3回	4月20日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第4回	4月27日	海洋と文化	市川 寿	(水産学部)
第5回	5月11日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第6回	5月18日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第7回	5月25日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第8回	6月 1日	特別講演 II	深堀 慶憲	(特別講師)
第9回	6月 8日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第10回	6月15日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第11回	6月22日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第12回	6月29日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第13回	7月 6日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第14回	7月13日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第15回	7月20日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化:海、食文化 平和:グローバル化、積極的平和、平和構築 長崎:地域経済、新産業創造、ソーシャルビジネス 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化:プリント等を適宜配付する。 平和:(参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004 長崎:教員の作成したスライドを用いるため、特に指定しない。 安全・安心:参考書:『安全安心工学入門』古今書院</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回の課題(7点×3回) 平和:3回目の授業時に試験実施 海洋と文化:毎回の講義のまとめをレポートとして提出</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂		
対象学生(クラス等) M13・T20A	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 高村 昇/Eメールアドレス: takamura@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7170 /オフィスアワー:月曜日3校時 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月曜日3校時 武田重信/Eメールアドレス:s-takeda@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2804 /オフィスアワー:金曜日3校時 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜日5校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>長 崎: 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回 南蛮医学から紅毛医学へ:アルメイダから始まる南蛮医学からその後の紅毛医学が長崎に伝来してきた歴史を学ぶ 第3回 ポンペと西洋医学教育:1857年のポンペによる西洋医学教育の開始とその後の歴史を学ぶ。</p> <p>安全・安心: 第1回 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を学ぶ。 第2回 地域の安全安心のためになされている市民活動について学ぶ。 第3回 安全安心を支えるための科学技術について学ぶ。</p> <p>海洋と文化:第1回 海洋学の歴史と未来。海洋探検に始まる海洋学の歴史と発展について学び、海洋研究の未来を考える。 第2回 海の資源と利用。海洋と海底に存在する様々な鉱物資源と生物資源の概要と管理制度を知る。 第3回 海洋における人間の存在。海洋汚染、乱獲、気候変動などの問題を通して、海洋生態系に人間が及ぼす影響を理解する。</p> <p>平 和: 第1回 核時代を考える 第2回 戦争と資源・環境問題 第3回 直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力</p>				
第1回	4月 8日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月15日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第3回	4月22日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第4回	5月 6日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第5回	5月13日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第6回	5月20日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第7回	5月27日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第8回	6月 3日	特別講演Ⅱ	眞部 利應	(特別講師)
第9回	6月10日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第10回	6月17日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第11回	6月24日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第12回	7月 1日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第13回	7月 8日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第14回	7月15日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第15回	7月22日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	長崎：南蛮医学、紅毛医学、西洋医学教育 安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生 海洋と文化：海洋探検、海洋資源、海洋汚染 平和：戦争、暴力、平和、核
教科書・教材・参考書	長崎：なし 安全・安心：なし 海洋と文化：参考書 「海洋学」(ポール・R・ピネ著 東海大学出版会) 平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 海洋と文化：レポート 平和：出席状況とレポートによる総合評価。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次		講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂	
対象学生(クラス等) M14・T20B		科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜日5校時 高村 昇/Eメールアドレス: takamura@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7170 /オフィスアワー:月曜日3校時 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月曜日3校時 武田重信/Eメールアドレス:s-takeda@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2804 /オフィスアワー:金曜日3校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
平 和 : 第1回 核時代を考える 第2回 戦争と資源・環境問題 第3回 直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力 長 崎 : 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回 南蛮医学から紅毛医学へ:アルメイダから始まる南蛮医学からその後の紅毛医学が長崎に伝来してきた歴史を学ぶ 第3回 ポンペと西洋医学教育:1857年のポンペによる西洋医学教育の開始とその後の歴史を学ぶ。 安全・安心 : 第1回 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を学ぶ。 第2回 地域の安全安心のためになされている市民活動について学ぶ。 第3回 安全安心を支えるための科学技術について学ぶ。 海洋と文化:第1回 海洋学の歴史と未来。海洋探検に始まる海洋学の歴史と発展について学び、海洋研究の未来を考える。 第2回 海の資源と利用。海洋と海底に存在する様々な鉱物資源と生物資源の概要と管理制度を知る。 第3回 海洋における人間の存在。海洋汚染、乱獲、気候変動などの問題を通して、海洋生態系に人間が及ぼす影響を理解する。				
第1回	4月 8日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月15日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第3回	4月22日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第4回	5月 6日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第5回	5月13日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第6回	5月20日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第7回	5月27日	長 崎	高村 昇	(医学部)
第8回	6月 3日	特別講演Ⅱ	眞部 利應	(特別講師)
第9回	6月10日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第10回	6月17日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第11回	6月24日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第12回	7月 1日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第13回	7月 8日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第14回	7月15日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第15回	7月22日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>平和：戦争、暴力、平和、核</p> <p>長崎：南蛮医学、紅毛医学、西洋医学教育</p> <p>安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生</p> <p>海洋と文化：海洋探検、海洋資源、海洋汚染</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。</p> <p>長崎：なし</p> <p>安全・安心：なし</p> <p>海洋と文化：参考書 「海洋学」(ポール・R・ピネ著 東海大学出版会)</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：レポート</p> <p>安全・安心：レポート</p> <p>海洋と文化：レポート</p> <p>平和：出席状況とレポートによる総合評価。</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次		講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂	
対象学生(クラス等) M15・T21A		科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 武田重信/Eメールアドレス:s-takeda@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2804 /オフィスアワー:金曜日3校時 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜日5校時 高村 昇/Eメールアドレス:takamura@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7170 /オフィスアワー:月曜日3校時 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月曜日3校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>海洋と文化: 第1回 海洋学の歴史と未来。海洋探検に始まる海洋学の歴史と発展について学び、海洋研究の未来を考える。</p> <p>第2回 海の資源と利用。海洋と海底に存在する様々な鉱物資源と生物資源の概要と管理制度を知る。</p> <p>第3回 海洋における人間の存在。海洋汚染、乱獲、気候変動などの問題を通して、海洋生態系に人間が及ぼす影響を理解する。</p> <p>平和: 第1回 核時代を考える</p> <p>第2回 戦争と資源・環境問題</p> <p>第3回 直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力</p> <p>長崎: 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。</p> <p>第2回 南蛮医学から紅毛医学へ:アルメイダから始まる南蛮医学からその後の紅毛医学が長崎に伝来してきた歴史を学ぶ</p> <p>第3回 ポンペと西洋医学教育:1857年のポンペによる西洋医学教育の開始とその後の歴史を学ぶ。</p> <p>安全・安心: 第1回 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を学ぶ。</p> <p>第2回 地域の安全安心のためになされている市民活動について学ぶ。</p> <p>第3回 安全安心を支えるための科学技術について学ぶ。</p>				
第1回	4月 8日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月15日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第3回	4月22日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第4回	5月 6日	海洋と文化	武田 重信	(水産学部)
第5回	5月13日	平和	戸田 清	(環境科学部)
第6回	5月20日	平和	戸田 清	(環境科学部)
第7回	5月27日	平和	戸田 清	(環境科学部)
第8回	6月 3日	特別講演Ⅱ	眞部 利應	(特別講師)
第9回	6月10日	長崎	高村 昇	(医学部)
第10回	6月17日	長崎	高村 昇	(医学部)
第11回	6月24日	長崎	高村 昇	(医学部)
第12回	7月 1日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第13回	7月 8日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第14回	7月15日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第15回	7月22日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化：海洋探検、海洋資源、海洋汚染</p> <p>平和：戦争、暴力、平和、核</p> <p>長崎：南蛮医学、紅毛医学、西洋医学教育</p> <p>安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化：参考書 「海洋学」(ポール・R・ピネ著、東海大学出版会)</p> <p>平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。</p> <p>長崎：なし</p> <p>安全・安心：なし</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：レポート</p> <p>安全・安心：レポート</p> <p>海洋と文化：レポート</p> <p>平和：出席状況とレポートによる総合評価。</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂		
対象学生(クラス等) D16・K25	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 三根眞理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 田中俊幸/Eメールアドレス:t-toshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2563 /オフィスアワー:月曜日1校時 中村武弘/Eメールアドレス:tak-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部/TEL:819-2746 /オフィスアワー:金曜日1校時 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜日 12:00-13:00				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長 崎: 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回 長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回 世界のヒパクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒパクシャの現状を学ぶ。 安全・安心: 第1回 安全と安心について 第2回 リスクマネジメントについて 第3回 電磁波がもたらす影響について 海洋と文化: 第1回 海洋の流動について 第2回 海洋の環境汚染について 第3回 海洋のエネルギーについて 平 和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいって平和の問題がこれまで以上に問われるようになっている。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地 第1回 4月 8日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月15日 長 崎 三根眞理子 (医学部) 第3回 4月22日 長 崎 三根眞理子 (医学部) 第4回 5月 6日 長 崎 三根眞理子 (医学部) 第5回 5月13日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第6回 5月20日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第7回 5月27日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第8回 6月 3日 特別講演Ⅱ 眞部 利應 (特別講師) 第9回 6月10日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第10回 6月17日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第11回 6月24日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第12回 7月 1日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第13回 7月 8日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第14回 7月15日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第15回 7月22日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ 安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント 海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー 平和：原爆被害、核兵器、基地、安保条約
教科書・教材・参考書	長崎：講義には適時資料を配布。参考書：「長崎医科大学原爆記録集」 安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。 海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。 平和：テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価 海洋と文化：レポートによる評価。 平和：毎回の講義のまとめ(100%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 429・中部講堂		
対象学生(クラス等) D17・K26	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜日 12:00-13:00 三根眞理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 田中俊幸/Eメールアドレス:t-toshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2563 /オフィスアワー:月曜日1校時 中村武弘/Eメールアドレス:tak-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部/TEL:819-2746 /オフィスアワー:金曜日1校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平 和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいって平和の問題がこれまで以上に問われるようになっていく。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地 長 崎: 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回 長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回 世界のヒバクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒバクシャの現状を学ぶ。 安全・安心: 第1回 安全と安心について 第2回 リスクマネジメントについて 第3回 電磁波がもたらす影響について 海洋と文化: 第1回 海洋の流動について 第2回 海洋の環境汚染について 第3回 海洋のエネルギーについて				
第1回	4月 8日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月15日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第3回	4月22日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第4回	5月 6日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第5回	5月13日	長 崎	三根眞理子	(医学部)
第6回	5月20日	長 崎	三根眞理子	(医学部)
第7回	5月27日	長 崎	三根眞理子	(医学部)
第8回	6月 3日	特別講演 II	眞部 利應	(特別講師)
第9回	6月10日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第10回	6月17日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第11回	6月24日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第12回	7月 1日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第13回	7月 8日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第14回	7月15日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第15回	7月22日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>平和：原爆被害、核兵器、基地、安保条約</p> <p>長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ</p> <p>安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント</p> <p>海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和：テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。</p> <p>長崎：講義には適時資料を配布。参考書：「長崎医科大学原爆記録集」</p> <p>安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p> <p>海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：レポート</p> <p>安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価</p> <p>海洋と文化：レポートによる評価。</p> <p>平和：毎回の講義のまとめ(100%)</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2011	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) T21B・T22A	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村武弘/Eメールアドレス:tak-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部/TEL:819-2746 /オフィスアワー:金曜日1校時 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜日 12:00-13:00 三根真理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 田中俊幸/Eメールアドレス:t-toshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2563 /オフィスアワー:月曜日1校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海洋と文化:第1回 海洋の流動について 第2回 海洋の環境汚染について 第3回 海洋のエネルギーについて 平 和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいって平和の問題がこれまで以上に問われるようになっている。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地 長 崎: 第1回 長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回 長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回 世界のヒバクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒバクシャの現状を学ぶ。 安全・安心: 第1回 安全と安心について 第2回 リスクマネジメントについて 第3回 電磁波がもたらす影響について 第1回 4月 8日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月15日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第3回 4月22日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第4回 5月 6日 海洋と文化 中村 武弘 (環境科学部) 第5回 5月13日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第6回 5月20日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第7回 5月27日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第8回 6月 3日 特別講演Ⅱ 眞部 利應 (特別講師) 第9回 6月10日 長 崎 三根真理子 (医学部) 第10回 6月17日 長 崎 三根真理子 (医学部) 第11回 6月24日 長 崎 三根真理子 (医学部) 第12回 7月 1日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第13回 7月 8日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第14回 7月15日 安全・安心 田中 俊幸 (工学部) 第15回 7月22日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	<p>海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー</p> <p>平和：原爆被害、核兵器、基地、安保条約</p> <p>長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ</p> <p>安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p> <p>平和：テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。</p> <p>長崎：講義には適時資料を配布。参考書：「長崎医科大学原爆記録集」</p> <p>安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、海洋と文化21点、平和21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：レポート</p> <p>安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価</p> <p>海洋と文化：レポートによる評価。</p> <p>平和：毎回の講義のまとめ(100%)</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	